

地域密着型金融の取組み状況（19年4月～20年3月）

鶴来信用金庫

1. 項目	1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化 創業・新事業支援												
2. タイトル	当金庫地区内商工会との合同研修会												
3. 動機（経緯）	平成16年6月に、地域における企業再生、ベンチャー企業支援、中小企業者に役立つ情報交換などの分野にかかる連携を円滑にするため、相互に協力をすることにより地域経済の活性化と中小企業金融の再生を図ることを目的し、当金庫地区内商工会（6商工会）と業務連携・協力に関する覚書を締結する。												
4. 取組み内容	<p>（1）業務連携にかかる具体的方策</p> <p>（2）地域内における経済情報・動向</p> <p>（3）その他連携・協力にかかる必要事項</p> <p>（4）連絡会、研修会を年間2～3回程度実施</p> <p>・平成19年10月11日に「責任共有制度等について」を石川県信用保証協会の講師により研修会を開催。商工会（8名）当金庫（20名）参加。</p> <p>・平成20年3月18日に「反社会的勢力の排除及びクレーマー対策について」を石川県警察本部の講師により研修会を開催。商工会（7名）当金庫（19名）参加。</p>												
5. 成果（効果）	<p>平成16年6月の「業務連携・協力に関する覚書」締結以後、当金庫地区内商工会との情報交換1回、合同研修会を8回開催実施する。</p> <p>・商工会・商工会議所との提携ローンの実績（20年3月末現在）</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">平成19年度中取扱実績</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">4件</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">11百万円</td> </tr> <tr> <td>平成20年3月末残高</td> <td style="text-align: center;">16件</td> <td style="text-align: right;">29百万円</td> </tr> </table> <p>・商工貯蓄共済の実績（20年3月末現在）</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">平成19年度中取扱実績</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">62件</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">194百万円</td> </tr> <tr> <td>平成20年3月末残高</td> <td style="text-align: center;">140件</td> <td style="text-align: right;">398百万円</td> </tr> </table>	平成19年度中取扱実績	4件	11百万円	平成20年3月末残高	16件	29百万円	平成19年度中取扱実績	62件	194百万円	平成20年3月末残高	140件	398百万円
平成19年度中取扱実績	4件	11百万円											
平成20年3月末残高	16件	29百万円											
平成19年度中取扱実績	62件	194百万円											
平成20年3月末残高	140件	398百万円											
6. 20年3月までの取組み状況に対する評価及び今後の課題	創業・新事業の立ち上げを考える取引先に対し、商工会との連携強化を図ることで、マーケティングから経理に至るまで総合的な事業化支援や、現在、取り組んでいる取引先に対し、情報提供や専門家の紹介等を実施いたしました。今後も、創業・新事業の対応能力向上のため職員の研修・勉強会を継続的に開催していきます。												

地域密着型金融の取組み状況（19年4月～20年3月）

鶴来信用金庫

1. 項目	1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化 経営改善支援
2. タイトル	しんきんビジネスフェアの合同開催
3. 動機（経緯）	平成18年度に引き続き、平成19年9月に、地域の発展、再生・活性化に貢献することを目的とし、北陸地区信用金庫協会主催の北陸地区内18信用金庫合同により開催されたしんきんビジネスフェア「北陸ビジネス街道2007」に参加し、当金庫取引先から19社20ブースの出展をおこなった。
4. 取組み内容	<p>取引先企業や出展企業に対し、新たなビジネスチャンスを求める企業先などとビジネスパートナーとして更なるビジネスチャンスを広げていただくため、ビジネスマッチングのサポートを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成19年4月18日に全営業店長が「コーディネーター研修」に参加し、マッチング成功の秘訣の講義を受ける。 ・平成19年7月14日に全営業店長が「事前マッチング情報交換会」に参加し「商談申込書」を交換、事前マッチングを推進 ・平成19年9月19日の開催当日に営業店職員が出展ブースで出展企業をサポート ・事後フォローを推進
5. 成果（効果）	<p>商談結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商談件数 135件 ・成約数 12件
6. 20年3月までの取組み状況に対する評価及び今後の課題	<p>ビジネスフェア開催当日の商談のみならず、事前マッチングの推進や事後フォローの推進を図りマッチングの結果がでている。3回目となる平成20年10月に開催予定の「しんきんビジネスフェア」についても、15先の当金庫取引先が出展予定であり、取引先企業のビジネスマッチングによる推進策として引き続き積極的に取り組む方針である。</p>

地域密着型金融の取組み状況（19年4月～20年3月）

鶴来信用金庫

1. 項目	1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化 事業再生																																
2. タイトル	債務者区分ランクアップ見込先に対する支援																																
3. 動機（経緯）	債務者に対し業績回復に向けた財務内容の改善を図ることを目的として、取引先が経営の現状を正しく把握しそれを解消すべく支援・交渉を行う。																																
4. 取組み内容	<p>債務者区分が要注意先・破綻懸念先の中からランクアップ見込先を抽出し「支援交渉記録」を持って実態把握を行い、例えば仕入れ等の見直し、経費削減、遊休不動産の利活用を提案し、結果として債務者区分のランクアップに繋げるための思索を実施し交渉していく。</p> <p>5月までにランクアップ見込先を営業店にて抽出する。</p> <p>7月までに支援交渉記録に現在の債務者区分になっている主な原因や、解消案を記載し提出する。</p> <p>自己査定後に結果や課題を記載し再提出する。</p>																																
5. 成果（効果）	<p>総数 83 先</p> <table border="0" data-bbox="502 1265 1276 1635"> <tr> <td>内ランクアップ</td> <td>要注意先</td> <td>正常先</td> <td>18 先</td> </tr> <tr> <td></td> <td>要管理先</td> <td>正常先</td> <td>2 先</td> </tr> <tr> <td></td> <td>要管理先</td> <td>要注意先</td> <td>2 先</td> </tr> <tr> <td></td> <td>破綻懸念先</td> <td>要注意先</td> <td>2 先</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実質破綻先</td> <td>破綻懸念先</td> <td>1 先</td> </tr> <tr> <td></td> <td>変動なし</td> <td></td> <td>48 先</td> </tr> <tr> <td></td> <td>回収</td> <td></td> <td>6 先</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ランクダウン</td> <td></td> <td>4 先</td> </tr> </table>	内ランクアップ	要注意先	正常先	18 先		要管理先	正常先	2 先		要管理先	要注意先	2 先		破綻懸念先	要注意先	2 先		実質破綻先	破綻懸念先	1 先		変動なし		48 先		回収		6 先		ランクダウン		4 先
内ランクアップ	要注意先	正常先	18 先																														
	要管理先	正常先	2 先																														
	要管理先	要注意先	2 先																														
	破綻懸念先	要注意先	2 先																														
	実質破綻先	破綻懸念先	1 先																														
	変動なし		48 先																														
	回収		6 先																														
	ランクダウン		4 先																														
6. 20年3月までの取組み状況に対する評価及び今後の課題	現在の債務者区分からランクアップさせる主な手段として、売上増加や経費の改善、仕入れの見直しによる利益計上、不動産売却による借入額の減額、下請けにて利幅と経費の見直しを図る、不良資産や不稼動資産の処分等があげられているが、建設業等の売上げ減少が阻害要因となって大きな課題となっている。サービス業等でランクアップが見られたが基幹産業では未だ時間がかかる模様である。																																

地域密着型金融の取組み状況（19年4月～20年3月）

鶴来信用金庫

1. 項目	2. 事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底 担保・保証に過度に依存しない融資等への取組み												
2. タイトル	企業支援融資制度（てどりがわ支援）及び私募債												
3. 動機（経緯）	営業活動によるキャッシュフローを重視し、担保・保証に過度に依存することなく、事業価値を見極める融資を平成16年6月に新設し、平成19年4月～平成20年3月においても積極的に推進を図った。												
4. 取組み内容	当金庫営業地域内で原則2年以上継続的に事業を営んでいる法人及び個人事業主を対象に、運転資金・設備資金（但し、旧債返済資金は除く）を融資限度額1,000万円以内（但し、500万円超は保証協会付とする）保証人は、第三者の保証は不要、担保は、原則担保不要で、融資利率年6.8%（固定金利）として推進を図っている。 運転資金（5年以内） 設備資金（7年以内）												
5. 成果（効果）	<p>企業支援融資（てどりがわ支援）の実績（20年3月末現在）</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">平成19年度中取扱実績</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">9件</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">26百万円</td> </tr> <tr> <td>平成20年3月末残高</td> <td style="text-align: center;">75件</td> <td style="text-align: right;">89百万円</td> </tr> </table> <p>私募債の実績（20年3月末現在）</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">平成19年度中取扱実績</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">1件</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">50百万円</td> </tr> <tr> <td>平成20年3月末残高</td> <td style="text-align: center;">1件</td> <td style="text-align: right;">50百万円</td> </tr> </table>	平成19年度中取扱実績	9件	26百万円	平成20年3月末残高	75件	89百万円	平成19年度中取扱実績	1件	50百万円	平成20年3月末残高	1件	50百万円
平成19年度中取扱実績	9件	26百万円											
平成20年3月末残高	75件	89百万円											
平成19年度中取扱実績	1件	50百万円											
平成20年3月末残高	1件	50百万円											
6. 20年3月までの取組み状況に対する評価及び今後の課題	定量的な財務情報だけでなく、事業価値の本質を見極める「目利き力」を重視した、担保・保証に過度に依存しない融資を平成19年度も推進を図り、評価できる結果となった。今後も、担保・保証に過度に依存しない融資は、最重要課題とし引き続き推進いたします。												

地域密着型金融の取組み状況（19年4月～20年3月）

鶴来信用金庫

1．項目	2．事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底 企業の将来性、技術力を的確に評価できる能力等、人材育成への取組み
2．タイトル	人材育成への取組み
3．動機（経緯）	取引先に対する経営相談・支援を積極的に発揮できる人材の育成を図るため研修会に職員を受講・参加させる。
4．取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・提案型再生支援セミナー（19年6月～11月5回開催）を部店長11名が受講 ・経営支援力向上研修会（19年7月）を開催、部店長、融資担当役席者40名が受講 ・いしかわ経営革新塾（19年9月～10月5回開催）を5名が受講 ・企業ランクアップ講座（19年10月、11月2回開催）を店長2が受講
5．成果（効果）	企業の再生支援には、経営者と同じ目線で経営に対する適切な提案、指導、アドバイスを行い、決算書などの定量分析だけでなく経営者の資質、手腕、企業技術力を企業再生に活かし、定性分析に重点を置くことも大切であり、収益性ばかりでなく生産性、安全性、成長性等の他、経営者及び従業員の意識改革をさせることを各自認識した。
6．20年3月までの取組み状況に対する評価及び今後の課題	<p>19年度の要注意先、破綻懸念先の中から企業支援先として抽出した30先でランクアップ要注意先 正常先 1先、未保全リスク先で3先が減少となる。</p> <p>19年度債務者区分ランクアップ見込み先83先で25先がランクアップとなる。</p> <p>当金庫の資産管理のサイドから大口未保全先を企業支援先としてリストアップし支援を実施したが内容が急激に改善されるものは少数であった。</p> <p>今後も、人材育成のため研修会等に参加させていきます。</p>

地域密着型金融の取組み状況（19年4月～20年3月）

鶴来信用金庫

1. 項目	3. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献 地域活性化につながる多様なサービスの提供
2. タイトル	まちの駅「獅子の里つるぎ」
3. 動機（経緯）	<p>NPO法人地域交流センター（東京）が提唱する制度で、鶴来商工会（ワーキング部会）が中心となり、平成19年8月から全国展開支援事業の一環として、白山市鶴来地区内の異業種連携と交流を深め地域の活性化を目的に石川県内では2番目として発足し、当地に本店を置く当金庫としても、地域の発展・ボランティアと、もてなしの心で多くの人々が訪れたい町づくり活動に賛同し、業種はさまざまな44事業所とともに唯一の金融機関として参加した。</p>
4. 取組み内容	<p>「まちの駅」の木製看板を店舗前に、パンフレットラックを店舗内に設置し、インフォメーションコーナー（年中無休）を利用した情報発信に加え、日曜ローン相談の開催やロビーなど休息の場を提供しながら、地域に対しての存在感を発揮するとともに地場産業・商店街等の地域ぐるみ活性化に取り組んでいる。また、職員全員が普通救命講習を受講し、救命士資格を取得し「救命講習修了者施設」として安心のもてなしを提供できるまちの駅として持続的発展が可能な地域社会づくりに参加している。</p>
5. 成果（効果）	<p>平成19年11月30日にまちの駅「獅子の里つるぎ」発足と同時に参加し、12月17日に加盟店を見て回る体験バスツアー、平成20年1月27日に加盟店を見て回った後の合格祈願ツアー、2月17日に独身男女の出会いツアー、3月1日からまるごとお得パスポートを発行するなど、地域住民や来訪者が求める地域情報を提供する機能を備え、人と人の出会いと交流を促進する空間施設として、ヒューマンステーションの役割を果たしている。</p>
6. 20年3月までの取組み状況に対する評価及び今後の課題	<p>平成19年11月30日（発足）以来、行事・イベント企画等は毎月1回ペースであり、積極的に参加し取り組んでいる。休憩所の金融情報を大型液晶画面による株価情報や金利情報などリアルタイムで表示しており、気軽な雰囲気のお店として評価が高い。唯一の金融機関として参加しており、金融機関ならではの企画・施策が今後の課題である。</p>

地域密着型金融の取組み状況（19年4月～20年3月）

鶴来信用金庫

1. 項目	3. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献 地域活性化につながる多様なサービスの提供
2. タイトル	いしかわ事業者版環境ISO（本部、子会社を含む18店舗）取得
3. 動機（経緯）	環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会の構築に向けて主体的な取組みを実践することが、金融機関の社会的責任として求められていることから、CO ₂ 排出量などの数値目標による自主行動計画の策定に併せ、石川県が独自に認定する「いしかわ事業者版環境ISO」に登録申請し、平成20年3月19日付にて認可を得た。
4. 取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素（CO₂）の排出量（売上高当たり）を平成18年度を基準として平成21年度までの3年間で3%削減する。 ・廃棄物の削減とリサイクルを進める。 ・コピー用紙の使用量を平成18年度を基準として平成21年度までの3年間で3%削減する。 ・個人的な（家庭内）取組みを進める。 ・対外的な（商品等の）取組みを進める。
5. 成果（効果）	平成19年10月1日から平成21年3月31日までの期間を環境保全に向けた具体的な活動実施期間と定め、ノー残業デー、ノーマイカーデーを設定するなどして、取り組みチェックシート、コピー用紙使用記録簿およびコピー用紙使用枚数報告書を利用し、効果を定期的（毎月）にとりまとめ数値等で報告を求めるとともに、「もったいない運動」推進中のポスターを店内に掲示し、全役職員がエネルギーなどの削減に努力し、地域に取組みの輪を広げている。
6. 20年3月までの取組み状況に対する評価及び今後の課題	<p>平成19年10月から取組みを実施し、18店舗合計で平成20年3月末日現在では目標に対し77%の達成率となった。</p> <p>平成19年12月より、環境に配慮した商品として、低公害車（ハイブリッドカー等）購入資金融資に対する貸出金利優遇を適用した。</p> <p>来店客も地球温暖化防止の理解度が深まり、むしろ来店客の省エネの目が厳しくなっており、金融機関としての取組みの難しさはあるものの、熱意を持って意欲的に取り組む方針である。</p>